



築上町

ちくじょうまち

いにしえの巨木と、
美しい風景に出会えるまち

本庄の大楠 (国指定天然記念物)

樹齢1900年(推定)の長寿を誇る、全国4位の巨木。樹高25.8m、幹周囲20.6mで、明治時代の火事により大半が焼失するも奇跡的に現在の姿にまで成長。秋にはライトアップされた大楠の下でクラシックコンサートが開かれるなど、築上町のシンボリック的存在



■ 城井ノ上城址
戦国時代末期の宇都宮氏の山城跡。近くの岩場に息づく「他城のイロハモミジ」の紅葉は見事。11月に「もみじウォーキング」「もみじ祭り」も開催される



■ 船迫築跡公園
奈良時代、豊前国分寺の屋根瓦を製作した工房建物(復元)のほか、須恵器や瓦を焼いた窯跡が残る。散策や陶芸体験もできる。国指定史跡



■ 築城基地航空祭
大迫力の航空ショーに加え、さまざまなステージイベントも行われる航空祭。毎年秋に開催され、全国から多くの来場者が訪れる



■ 網敷天満宮
菅原道真公が左遷され大宰府に向かう途中、船が難破して高塚の浜に漂着し、地元の人たちが船の綱を円座に敷いて迎えたという故事にちなんで創建された



■ 白い彼岸花(不老山正光寺)
彼岸花といえば赤色が定番だが、9月下旬、伝法寺の不老山正光寺では約1万本もの白い彼岸花の群生が一斉に開花。「白い彼岸花祭り」が開催される



■ 築上町農業公園(しいだアグリパーク)
コンビネーション遊具を備えた芝生公園やスケートボードリンク、フットサルコートなど、体を動かして楽しめる憩いスポット。貸し農園も利用できる



■ 潮干狩り
周防灘に面した浜の宮海岸は、遠浅の潮干狩りスポットとして有名。毎春3月から、あさり貝の潮干狩りが解禁となり、たくさんの観光客でにぎわいを見せる



■ 神楽・楽打
歴史ある7つの神楽、3つの楽打が守り継がれ、国・県・町の無形民俗文化財に指定されている。各地域で奉納される伝統芸能が一堂に集う「神楽・民俗芸能祭」を隔年で開催



■ 旧蔵内邸
明治時代から3代にわたって栄えた炭鉱主の住宅と庭園で、国の名勝に指定されている。一般公開もされており、各所に繊細な細工が施された邸宅と、多彩な視点場を持つ大きな池庭は必見

自然と町と人が
奏でるハーモニー



■ 築上町物産館「メタセの杜」
秋は紅葉が美しいメタセコイアの木々に囲まれた憩いの広場。地元の農水産品や加工品などを販売する物産館は、町内外の多くの人に親しまれている

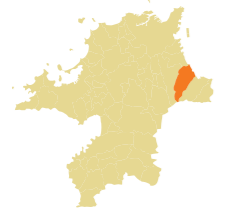


■ 豊前海一粒かき
豊前海で育ったミネラル豊富なカキは、プリッと詰まった身がおいしいと評判



■ 隊員食堂カレー
航空自衛隊築城基地で好評だった食堂のカレーをレトルトに。基地売店と築上町物産館「メタセの杜」で販売されている

■ 問い合わせ
築上町役場
築上郡築上町椎田891-2
☎0930-56-0300(代表)
ファクス0930-56-1405
<http://www.town.chikujō.fukuoka.jp/>



循環授業の稲作体験



資源循環型のまちづくり
築上町では、持続可能な資源循環型のまちづくりを目指し、し尿や汚泥の液肥化に取り組んでいきます。農地に還元された液肥は、安全でおいしい農産物を生み出し、農業生産のコスト削減にも貢献。また、町内の全小中学校で、液肥を利用した米や野菜を使った自校式の完全米飯給食を実施し、子どもたちの健康で心豊かな成長をサポートしています。



「築上(きずきのぼる)」
築上町生まれの自然を愛する少年。喜怒哀楽の表情を「築上」で表現

福岡県の東部に位置する築上町は、平成18年1月に、椎田町と築城町が合併して誕生しました。大分県に接する南部の山林を源にした河川が北部の平野を潤し、周防灘へと注ぐこの地域一帯は、いにしえから「豊の国」といわれ、海の幸、山の恵みなどが豊富です。
受け継がれてきた歴史や文化を次世代に残しつつ、町に新たな魅力を生み出そうと試行錯誤する人の営みに、今日も「本庄の大桶」が寄り添い、優しく見守ります。



浜宮大橋などに毎冬設置するイルミネーションは好評



主催する「わいわいビアガーデン」は、約500人の来場者でにぎわう夏の風物詩



部長の原田秀行さん(前列右)、友住優介さん(前列中央)、商工会担当職員の野田太一郎さん(前列左)ら、青年部の皆さん

築上町商工会青年部



地元のタクシー会社が掲示を協力するステッカーや東九州道沿線のFM局6社で作ったパンフレットでPR



新たに始まった神楽講の番組に出演する皆さん



代表の福田みどりさん(写真右)とパーソナリティの石川美和さん

スターコーンFM

**地元密着の番組で
地域を元気にする
コミュニティFM**

京築地域唯一のFM局として、平成12年に開局した地域密着型のラジオ局。代表の福田みどりさんと2人のラジオパーソナリティを中心に、少人数で運営しています。地域の暮らしに欠かせない生活・防災情報や子育て情報をはじめ、地元の演歌歌手がパーソナリティを務める番組のほか、元高校教諭による日本文化、古典を学ぶ番組など幅広い内容で展開。リスナーも1カ月に約120人が登場します。

今年8月からは、新たに神楽講に特化した番組がスタートし、京築神楽の魅力を発信しています。

「多くの皆さんの力で成り立つ放送局ですから、商店街などの地元の方に出演していただいてもっとも活用してもらいたいです」と福田さん。感謝の気持ちを電波に乗せて、元気に地域を盛り上げていきます。

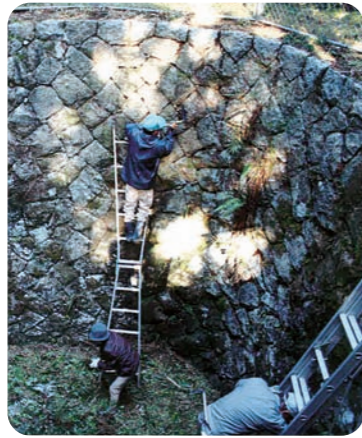
**地域愛と
ネットワークで
熱いまちづくり**

地域経済団体の青年部門として平成24年4月に設立された「築上町商工会青年部」。45歳までの経営者や後継者を中心に、男女33人のメンバーが、町内で行われるイベントなどで大活躍しています。

「青年部の目的は、経営能力や人間力を身に付け、地域で活躍する担い手を育てること。例えば、ビアガーデンやイルミネーションの設置といった自主イベントの企画、青年経営者主張発表大会への参加など、アイデアを出し合っているいろいろなことにチャレンジできるのが醍醐味です」と熱く語るのは、部長の原田秀行さん。「そこには必ず学びがある。人脈も広がるし、自分の仕事にも生かせる」とメンバーの声にも力がこもります。消防団をはじめ、地域のサポートも積極的に取り組んでいます。



今年7月に催された筑前琵琶演奏会「城井落城物語」の様子



文化財保護のボランティア活動の一環で行った「本庄の雪穴」の清掃



現在の会員数は67人。会長の白川正さん(写真前列左から3番目)と会員の新川久三町長(写真前列左から2番目)ほか役員の皆さん

築上町郷土誌会

**特産品の開発や
流鏝馬の復活などで
地域に活力を**

「恵まれた自然環境や歴史文化を活用して、持続可能で活力のある故郷を実現したい」という目的で、平成20年に発足した「上城井ふれあい協議会」。自治会やボランティア団体など、65人のメンバーがいます。

「活動するにあたっては、地域に何が必要か住民500世帯にアンケート調査を実施しました。その意見を反映して、上城井米の栽培とブランド化、神楽や流鏝馬といった伝統行事の伝承と復活などさまざまな取り組みを行ってきました」と話す、事務局長の白川義雄さん。2年前からは地域おこし協力隊の船木陽子さんが活動を始め、そば打ち教室の開催や青年部とキクイモの栽培などを行っています。

来年3月には明治時代の建物を利用して、古民家レストランをオープン予定。多世代がつながって活動の輪を広げていきます。

**故郷の歴史を
若い世代へ
語り継ぎたい**

旧町でそれぞれ活動していた椎田町文化財協議会と築城町ふるさと文化研究会が合併し、平成25年に発足した「築上町郷土誌会」。現地研修や会誌発行などに加え、今年新たに筑前琵琶演奏会「城井落城物語」を開催しました。

「官兵衛ブームが下火になりつつある今、かつて400年この地を治めた宇都宮氏の歴史を伝える企画をしよう」ということになりました。宇都宮氏への興味・関心が、皆さんの心の中ですと続いてほしいというのが郷土誌会の思いです」と話す、会長の白川正さん。当日は町内外から約300人が来場し大成功を収めました。

また、「京築めぐり」のボランティアガイドなど観光振興にも取り組む皆さん。「子どもたちに故郷の歴史を誇りに思ってもらいたい」と、若い世代へ語り継ぐことにも意欲を燃やしています。

上城井ふれあい協議会



写真右から事務局長の白川義雄さん、会長の山内守さん、船木陽子さん



平成21年11月に復活した流鏝馬祭りは来年で5回目を迎える



地元の子どもたちが参加したそば打ち教室の様子